

ばら通信

社会福祉法人グリーンローズ 「ことば」の教室
オリブ園

インフルエンザに注意！うがい、手洗

2005.12.7発行

〒010-1638 秋田市新屋表町8-5

☎018-828-7750 Fax018-828-8185

NEWS

雪が降りました！！

2005.8.6 30周年同窓会が行われました。

2005.9.17 運動会が行われました。

2005.10.15～16 ワークショップ

2005.11.3 バザーが行われました。

「障害者自立支援法」

大変な時代に

「障害者自立支援法」（以下「自立支援法」）は、平成17年初頭に閣議決定され、国会に上程されましたが、例の郵政民営化法案の否決と共に一旦は廃案となりましたが、今国会に再び上程され、10月31日に可決成立しました。この法案は、国の財政難より打ち出されたものと言われています。今まで応能負担だったものをすべて1割負担の応益負担となり、これまで子どもたちの世界は「契約はなじまない」と言ってきたものを変え、契約制度となります。国家の借金は800兆円となり、国民すべてが一人にすると600万円の借金という事です。いつ、誰が、何のために、こうした借金を作ったのかは明らかにされていません。そして、誰も責任をとることなく、そのつけを国民（障害をもつ人々を含めて）に回そうとしているのです。しかし、今さらながらです。きびしい時代に入ったというのが印象です。子どもの権利条約23条には、「障害」をもつ子どもへの支援の費用は可能な限り無償で与えられるべきだ、と書かれています。「自立支援法」はこうした世界の趨勢に逆行していることだけは、確かだと思います。（後藤）



「自立支援法」については今後保護者の方にも情報を提供していくつもりです。平成18年10月からの施行です。今年度中に詳しい内容が出ると思われます。子どもたちとその家族が、しっかりと支援を受けられるように、工夫、努力をしていきたいと考えています。

今月のことば

珠のように美しい子どもを産むと、ご両親は自慢に思うでしょうが、自分で作った訳ではないですから、おかしいです。こんな子を産んだなどと責めるのも、それと同じ事で、お母さんの責任ではありません。

障害や病気を持っていることに引け目を感じるのは変だということは、よく考えてみれば分かります。そういったことからは人間ができることの領域の外にあります。だから、人間ごときがそれに責任を持とうとするのは、僭越と言えましょう。（中略）

生まれてくるいのちは、すべて歓迎するということですよ。

「子どもを選ばないことを選ぶ」
MCメディアカ出版 大野明子

この本の中でインタビューに答えた
長谷川知子（臨床遺伝医）先生のことば

この本をお勧めします。基本的にはダウン症の子どもたちをめぐる本ですが、すべての子どもたちを受け止める力を、この本は持っていると思います。家族の意志も多く語られています。また、大野先生・長谷川先生の生き方がすばらしいと思います。（後藤）

三十周年記念同窓会

さる、8月6日（土）にオリブ園（「ことば」の教室38周年）の記念同窓会を開催しました。ルーテル愛児幼稚園ホールにて、暑い中300人もの方々が集いました。どうもありがとうございました。

遠く埼玉から一人で訪れてくれた大学生、千葉からは家族づれで、そして卒園生最年長は44才でした。これからもよろしくお願い致します。



※30周年記念誌残部あります。ほしい方ご連絡下さい

ワークショップ

を行いました

平成17年10月15日（土）～17日（日）

特別支援教育について 専修大学教授 嶺井正也先生

今、教育の世界も大きく変わろうとしています。それが、従来の「特殊教育」から「特別支援教育」です。しかし、全ての子どもたちが、共に生きていくという教育につながっていているのか、世界はどうなっているのか、日本においては？こうした様々な疑問に、分かりやすい形でお話をしてくれました。分けない、分離しない教育こそが、世界の趨勢なのに、日本は、なぜ分離教育にこだわっているのか。しかし、まだ希望をもって、この「特別支援教育」をチャンスに変えて、より「共生」できる教育をめざして声を出していこうという、メッセージだったと思います。嶺井先生は、こうした活動を精力的に行っています。「自分の子どもにいつの日か友だちができ、もっと広い地域社会と関わっていくようになることを願わない親に、私はいままで出会ったことがない、そして、これからのないであろう。」(Mara Sapon)嶺井先生の資料より。

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail bara@abelia.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www7.ocn.ne.jp/~bara>